



大学を創設した大坪久泰さんのお教育理念などについて話す  
西村直樹副学長

### 学生・職員紹介



国際教養学部4年  
木田朋花さん

たいという学生を100%応援してくれる。

元々積極的な性格だつ

たが、4ヶ月間の米国留学でさまざまなボランティアに参加し、何事もまず挑戦してみようと思うようになつた。卒業後はホテルコンシエルジュとして働く。大学で培った英語力を生かしていきたい。

ヨーロッパや北米などの多彩な経験を持つ先生が在籍しており、グローバルな視点をリアルに感じることができる。教員と学生の距離が本当に近く、学び

### 成り立ち

宮崎市の宮崎国際大は今年、1994年の開学から30周年を迎えた。国際教養、教育学部の特色ある授業や就職、地域連携などの取り組みを紹介する。

◇ ◇ ◇

「自分の教育理念にござ  
わり、貫く方だった」。大学

創設者で理事長などを務め  
た大坪久泰さん(故人)を、

補佐として長年支えた西村

新しい未来へ

11  
Miyazaki International University

宮崎国際大学  
開学30周年

# グローバル人材育成 少人数で思考、発信力磨く

直樹副学長は懐かしむ。「日本文化と外国の諸文化に精通し、かつ、優れた英語力をもつ国際人を養成する」という崇高な理念と目標を持つていたと振り返る。

大学は比較文化学部比較文化学科(現国際教養学部)の1学部1学科でスタッフ8割以上が外国人、授業は英語で少人数。海外研修も必修。現在では当たり前となつたが、当時は時代を先取りした先進的な取り組みだった。

そこには、大坪さんの体験が関係する。防衛庁(現防衛省)の技術研究者だった1972(昭和47)年、米海軍へ派遣された。米国人の柔軟な思考と広い視野に驚き、日本人エリートとの違いを感じた。その米国人たちは、少人数でさまざまな学問分野を問題意識を持つて幅広く学ぶ「リベラル・アーツ」系の大学出身だった。また国際学会などで、日本人の英語力の弱さや国際教養の乏しさを痛感していた。

大坪さんは父親から引き継いだ学校法人で大学を創設するに当たり、リベラル

・アーツ教育を取り入れることに。分析的思考を持つコミュニケーションを重視し、対話方式の授業形態を取るなど、考える力と発信力の力を磨いた。西村副学長は「国際社会で活躍できるグローバル人材の育成を目指した」と説明する。

2014年は小学校教員を養成する二ースの高まりを受け、教育学部を新設。23年には国際教養研究科国際教養学専攻の修士課程の大学院を設置した。さらに、海外から留学生を受け入れる博士課程や通信教育課程の設置構想を描くなど、今でも変化を恐れず歩み続けている。

村上昇学長は「人材供給、大学周辺の地域経済活性化の役割を今後も担つていかないといけなければならない」と話す。

授業は教科専門と英語の教員2人体制。少人数でのコミュニケーションを重視し、対話方式の授業形態を取るなど、考える力と発信力の力を磨いた。クティブラーニング」を柱とした。